

# ストリップ かぶりつき

有賀美雪の  
楽屋育ちのひとりごと

隔月連載 第22回



## 演し物だって、今その瞬間の 自分の気持ちを大切に。

プレマが読者の皆さま、そしていつもストリップを愛してくれる皆さま方、お元気ですか。有賀美雪です。この原稿を書いている今、私は関東方面を旅しています。9月になったらまた銀映さんにお世話になります。そのときにはまた、皆さんと同じ時間を共有して、楽しいステージができるように頑張りたいと思っています。

この頃、前は演し物を考えることって、そんなに大変なことだとは思わなかったの。アイデアもプカプカ浮かんで、そのまま曲や衣装に当てはめればOKだったんだけど、最近の有賀は、妙に頑固なこだわりじいになってしまっているんです。

私のイメージに対して、衣装はどうか、選曲はどうだとか、いちいち小難しく考えて、おかげでスムーズに出し物が出来上がらないんですよ。お客さんが「別に悪くないんじゃないの」なんて言ってくれても、自分が納得いかなければだめなんです。本当に誰よりも自分が気難しいものだから。

本人が妥協して踊れば、何も問題はないはずなのに、その本人が受け入れたがらないものだから、ちっとも先に進まず苦労ばかりしている毎日です。

曲作りにしたってそうです。私はラストまでの選曲が決まったら、自分のAVで音録するんだけど、そのときに必ずミキシングをして、何曲かをまとめて一曲として使えるようにするんです。でも、ミキサーのボタンを押すタイミングだって大変です。1秒、2秒ずれただけで、おかしくなってしまうんですから。ほんと、実際の生活の中の1、2秒なんて、ちっともたいしたことがないのね。

さて、そんなわけでいつも私は、初出しギリギリまで、演し物のことであれこれ頭を悩ませるわけですが、じゃあ、いざ舞台上がれば、それでステージが固まるかというと、

そうじゃないんです。

踊りながら「これは曲に合わない」と感じたなら、その場で振り付けも変えちゃうし、1日4回のステージが、そのたびに振りが変わることだってあるんです。初日と楽日では、全然踊っている曲が違うことだってあります。揚げ句の果てには、「衣装が違う！」って思ったら、楽屋でいきなり、衣装を自分で切って改造しちゃったりね。何時間後には、またそれを着て踊らなくっちゃいけないのね。

何てそんなに無謀なことをして自分を疲れさせるんだろう。でも、自分でいやなままの状態が続くよりも、その方が楽なんだから。

もしかしたら、ステージに立つ自分の心が毎日同じなら、踊りも同じでいいと思う。でも、ロボットじゃないんだもの。人の心って毎日変わるもの。人の心って毎日変わるもの。私はその時々の自分の気持ちを大切にしながら、舞台上に立ちたいの。そんなことを言いながらも、また苦労を重ねる有賀なんです。